

妙法蓮華經。分別功德品。第十七

爾の時に大會、佛の壽命の劫數長遠なること是の如くなるを説きたもうを聞いて、無量無邊阿僧祇の衆生大饒益を得つ。

時に世尊、彌勒菩薩摩訶薩に告げたまわく、

阿逸多、我是の如來の壽命長遠なるを説く時、六百八十萬億

那由他恒河沙の衆生、無生法忍を得。復千倍の菩薩摩訶薩あつ

て聞持陀羅尼門を得。復一世界微塵數の菩薩摩訶薩あつて樂説

無礙辯才を得。復一世界微塵數の菩薩摩訶薩あつて百千萬億無量

の旋陀羅尼を得。復三千大千世界微塵數の菩薩摩訶薩あつて能く

不退の法輪を轉ず。復二千中國土微塵數の菩薩摩訶薩あつて能く

清淨の法輪を轉ず。復小千國土微塵數の菩薩摩訶薩あつて、八

生に當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。復四天下微塵數の

菩薩摩訶薩あつて、四生に當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

復三四天下微塵數の菩薩摩訶薩あつて、三生に當に阿耨多羅三

藐三菩提を得べし。復二四天下微塵數の菩薩摩訶薩あつて、

二生に當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。復一四天下微塵數の

菩薩摩訶薩あつて、一生に當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

復八世界微塵數の衆生あつて、皆阿耨多羅三藐三菩提の心を

發しつ。

佛是の諸の菩薩摩訶薩の大法利を得ることを説きたもう

時、虛空の中より曼陀羅華・摩訶曼陀羅華を雨らして、以て無量

百千萬億の寶樹下の師子座上の諸佛に散じ、竝に七寶塔中の

師子座上の釋迦牟尼佛及び久滅度の多寶如來に散じ、亦一切の

諸の大菩薩及び四部の衆に散ず。又細抹の梅檀・沈水香等を雨

らし、虛空の中に於て天鼓自ら鳴つて妙聲深遠なり。又千種

の天衣を雨らし、諸の瓔珞・眞珠瓔珞・摩尼珠瓔珞・如意珠

瓔珞を垂れて九方に徧ぜり。衆寶の香爐に無價の香を焼いて、自然に周く至つて大會に供養す。一一の佛の上に諸の菩薩あつて旛蓋を執持して次第に上つて梵天に至る。是の諸の菩薩妙なる音聲を以て、無量の頌を歌して諸佛を讚歎したてまつる。

爾の時に彌勒菩薩座より起つて、徧に右の肩を袒にし、合掌し佛に向いたてまつりて、偈を説いて言さく、

佛希有の法を説きたもう

昔より未だ會て聞かざる所なり

世尊は大力ましまして 壽命量るべからず

無數の諸の佛子 世尊の分別して

法利を得る者を説きたもうを聞いて 歡喜身に充徧す

或は不退の地に住し 或は陀羅尼を得

或は無礙の樂説 萬億の旋總持あり

或は大千界 微塵數の菩薩あつて

各各に皆能く 不退の法輪を轉ず

復中千界 微塵數の菩薩あつて

各各に皆能く 清淨の法輪を轉ず

復小千界 微塵數の菩薩あつて

餘 各八生あつて 當に佛道を成ずることを得べし

或は四三二 此の如き四天下

微塵數の菩薩あつて 數の生に隨つて成佛せん

或は一四天下 微塵數の菩薩

餘 一生あることあつて 當に一切智を得べし

是の如き等の衆生 佛壽の長遠なることを聞いて

無量無漏 清淨の果報を得

復八世界 微塵數の衆生あつて

佛の壽命を説きたもうを聞いて 皆無上の心を發しつ
世尊無量不可思議の法を説きたもうに

多く饒益する所あること 虚空の無邊なるが如し

天の曼陀羅 摩訶曼陀羅を雨らして

釋・梵恒沙の如く 無數の佛土より來れり

栴檀・沈水を雨らして 繽紛として亂れ墜つること

鳥の飛んで空より下るが如くにして 諸佛に供散し

天鼓虚空の中にして 自然に妙聲を出し

天衣千萬億 旋轉して來下し

衆寶の妙なる香爐に 無價の香を燒いて

自然に悉く周徧して 諸の世尊に供養す

其の大菩薩衆は 七寶の旛蓋

高妙にして萬億種なるを執つて 次第に梵天に至る

一一の諸佛の前に 寶幢に勝旛を懸けたり

亦千萬の偈を以て 諸の如來を歌詠したてまつる

是の如き種種の事 昔より未だ曾てあらざる所なり

佛壽の無量なることを聞いて 一切皆歡喜す

佛の名十方に聞えて 廣く衆生を饒益したもう

一切の善根を具して 以て無上の心を助く

爾の時に佛、彌勒菩薩摩訶薩に告げたまわく、

阿逸多、其れ衆生あつて、佛の壽命の長遠是の如くなるを

聞いて、乃至能く一念の信解を生ぜば、所得の功德限量あるこ

となけん。若し善男子・善女人あつて、阿耨多羅三藐三菩提の

爲の故に、八十萬億那由他劫に於て五波羅蜜を行ぜん。檀

波羅蜜・尸羅波羅蜜・羼提波羅蜜・毘梨耶波羅蜜・禪波羅蜜な

り、般若波羅蜜をば除く。是の功德を以て前の功德に比ぶるに、

百分・千分・百千萬億分にして其の一にも及ばず。乃至算數・

譬諭も知ること能わざる所なり。若し善男子、是の如き功德あつて、阿耨多羅三藐三菩提に於て退ずるといわば、是の處あることなけん。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

若し人佛慧を求め 八十萬億

那由他の劫數に於て 五波羅蜜を行ぜん

是の諸の劫の中に於て 佛及び縁覺弟子

并に 諸の菩薩衆に 布施し供養せん

珍異の飲食 上服と臥具と

栴檀をもつて精舎を立て 園林を以て莊嚴せる

是の如き等の布施 種種に皆微妙なる

此の諸の劫數を盡くして 以て佛道に廻向せん

若し復禁戒を持つて 清淨にして缺漏なく

無上道の諸佛の 歎めたもう所なるを求めん

若し復忍辱を行じて 調柔の地に住し

設い衆の惡來り加うとも 其の心傾動せざらん

諸の有ゆる得法の者の 増上慢を懷ける

斯れに輕しめ惱まされん 是の如きをも亦能く忍ばん

若し復勤め精進し 志念常に堅固にして

無量億劫に於て 一心に懈怠せざらん

又無數劫に於て 空閑の處に住して

若しは坐し若しは經行し 睡を除いて常に心を攝めん

是の因縁を以ての故に 能く諸の禪定を生じ

八十億萬劫に 安住して心亂れず

此の一心の福をつて 無上道を願求し

我一切智を得て 諸の禪定の際を盡くさんと

是の人百千萬億の劫數の中に於て

此の諸の功德を行ずること 上の諸説の如くならん

善男女等あつて 我が壽命を説くを聞いて

乃至一念も信せば 其の福彼れに過ぎたらん

若し人悉く一切の 諸の疑悔あることなくして

深心に須臾も信ぜん 其の福此の如くなることを爲

其れ 諸の菩薩の 無量劫に道を行ずるあつて

我が壽命を説くを聞いて 是れ則ち能く信受せん

是の如き諸人等 此の經典を頂受して

我未來に於て 長壽にして衆生を度せんこと

今日の世尊の 諸釋の中の王として

道場にして師子吼し

法を説きたもうに畏るる所なきが如く

我等も未來世に 一切に尊敬せられて

道場に坐せん時 壽を説くこと亦是の如くならんと願せん

若し深心あらん者 清淨にして質直に

多聞にして能く總し 義に隨つて佛語を解せん

是の如き諸人等 此に於て疑あることなけん

又阿逸多、若し佛の壽命長遠なるを聞いて、其の言趣を解

するあらん。是の人の所得の功德限量あることなくして、能く

如來の無上の慧を起さん。

何に況んや、廣く是の經を聞き若しは人をしても聞かしめ、

若しは自らも持ち、若しは人をしても持たしめ、若しは自らも

書き若しは人をしても書かしめ、若しは華・香・瓔珞・幢旛・

繪蓋・香油・蘇燈を以て經卷を供養せんをや。是の人の功德

無量無邊にして、能く一切種智を生ぜん。

阿逸多、若し善男子・善女人、我が壽命長遠なるを説くを聞

いて深心に信解せば、則ち爲れ佛常に耆闍崛山に在つて、大菩薩諸の聲聞衆の圍繞せると共に說法するを見、又此の娑婆世界、其の地瑠璃にして坦然平正に、閻浮檀金以て八道を界い、寶樹行列し、諸臺樓觀皆悉く寶をもつて成じて、其の菩薩衆咸く其の中に處せるを見ん。若し能く是の如く觀ずるとあらん者は、當に知るべし、是れを深信解の相と爲く。

又復如來の滅後に、若し是の經を聞いて毀訾せずして隨喜の心を起さん。當に知るべし、已に深信解の相と爲く。何に況んや、之を讀誦し受持せん者をや。斯の人は則ち爲れ如來を頂戴したてまつるなり。阿逸多、是の善男子・善女人は我が爲に復塔寺を起て及び僧坊を作り、四事を以て衆僧を供養することを須いず。所以は何ん、是の善男子・善女人の是の經典を受持し讀誦せん者は、爲れ已に塔を起て僧坊を造立し衆僧を供養するなり。則ち爲れ佛舍利を以て七寶の塔を起て、高廣漸小にして梵天に至り、諸の旛蓋及び衆の寶鈴を懸け、華・香・瓔珞・抹香・塗香・燒香・衆鼓・伎樂・簫笛・箜篌・種種の舞戲あつて、妙なる音聲を以て歌唄讚頌するなり。則ち爲れ已に無量千萬億劫に於て是の供養を作し已るなり。

阿逸多、若し我が滅後に、是の經典を聞いて能く受持し、若しは自ら書き若しは人をして書かしむることあらんは、則ち爲れ僧坊を起立し赤梅檀を以て諸の殿堂を作ること三十有二、高さ八多羅樹、高廣嚴好にして、百千の比丘其の中に於て止み、園林・浴池・經行・禪窟・衣服・飲食・牀蓐・湯藥・一切の樂具其の中に充滿せん。是の如き僧坊・堂閣若干百千萬億にして其の數無量なる、此れを以て現前に我及び比丘僧に供養するなり。是の故に我説く、

如來の滅後に、若し受持し讀誦し、他人の爲に説き、若しは

自らも書き若しは人をしても書かしめ、經卷を供養することあらんは、復塔寺を起て及び僧坊を造り衆僧を供養することを須いず。

況んや復人あつて能く是の經を持ち、兼ねて布施・持戒・忍辱・精進・一心・智慧を行ぜんをや。其の徳最勝にして無量無邊ならん。譬えば虚空の東・西・南・北・四維・上・下無量無邊なるが如く、是の人の功德も亦復是の如し。無量無邊にして疾く一切種智に至らん。

若し人は是の經を讀誦し受持し、他人の爲に説き、若しは自らも書き若しは人をしても書かしめ、復能く塔を起て及び僧坊を造り、聲聞の衆僧を供養し讚歎し、亦百千萬億の讚歎の法を以て菩薩の功德を讚歎し、又他人の爲に種種の因縁をもつて義に隨つて此の法華經を解説し、復能く清淨に戒を持ち、柔和の者と共に同止し、忍辱にして瞋なく志念堅固にして、常に坐禪を貴び諸の深定を得、精進勇猛にして諸の善法を攝し、利根智慧にして善く問難を答えん。

阿逸多、若し我が滅後に、諸の善男子・善女人、是の經典を受持し讀誦せん者、復是の如き諸の善功德あらん。當に知るべし、是の人は已に道場に趣き、阿耨多羅三藐三菩提に近づいて道樹の下に坐せるなり。

阿逸多、是の善男子・善女人の若しは坐し若しは立し若しは經行せん處、此の中には便ち塔を起つべし。一切の天・人皆供養すること、佛の塔の如くすべし。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

若し我が滅度の後に 能く此の經を奉持せん
斯の人の福無量なること 上の所説の如し

是れ則ち爲れ 一切の諸の供養を具足し
舍利を以て塔を起て 七寶をもつて莊嚴し
表刹甚だ高廣に 漸小にして梵天に至り
寶鈴千萬億にして 風の動かすに妙音を出し
又無量劫に於て 此の塔に
華・香・諸の瓔珞・天衣衆の伎樂を供養し
香油蘇燈を然して 周布して常に照明するなり
惡世末法の時 能く是の經を持たん者は
則ち爲れ已に上の如く 諸の供養を具足するなり
若し能く此の經を持たんは 則ち佛の現在に
牛頭栴檀を以て 僧坊を起てて供養し
堂三十二あつて 高さ八多羅樹
上膳妙なる衣服 牀臥皆具足し
百千衆の住處 園林・諸の浴池
經行及び禪窟 種種に皆嚴好にするが如し
若し信解の心あつて 受持し讀誦し書き
若しは復人をしても書かしめ 及び經卷を供養し
華・香・抹香を散じ 須曼・瞻蔔
阿提目多伽の 薰油を以て常に之を然さん
是の如く供養せん者は 無量の功德を得ん
虚空の無邊なるが如く 其の福も亦是の如し
況んや復此の經を持つて 兼ねて布施・持戒し
忍辱にして禪定を樂い 瞋らず惡口せざらんをや
塔廟を恭敬し 諸の比丘に謙下して
自高の心を遠離し 常に智慧を思惟し
問難することあらんに瞋らず 隨順にして爲に解説せん
若し能く是の行を行ぜば 功德量るべからず

若し此の法師の 是の如き徳を成就せるを見ては
天華を以て散じ 天衣を其の身に覆い
頭面に足を接して禮し 心を生じて佛の想の如くすべし
又是の念を作すべし 久しからずして道場に詣して
無漏・無爲を得 廣く諸の天・人を利せんと
其の所住止の處 經行し若しは坐臥し
乃至一偈をも説かん 是の中には塔を起てて
莊嚴し妙好ならしめて 種種に以て供養すべし
佛子此の地に住すれば 則ち是れ佛受用したもう
常に其の中に在して 經行し若しは坐臥したまわん